

# 心をひとつに

秋田県人会  
九州・沖縄

題字:ばんば三郎

## 鳥海山、弥生時代の埋もれ木が1億円のテーブルに

秋田県にかほ市象潟町の鳥海山北西山麓に埋まっていた樺(けやき)の木が木工の町、福岡県大川市の「関家具(関文彦社長)」で長さ7メートル、幅1.5メートル、厚さ10センチの1枚板のテーブルに加工され、新年1月、1億1500万円で売り出されました。

弥生時代の紀元前466年、鳥海山は大規模な噴火活動で山体が崩壊し、約60億トンもの土砂が崩れ、山麓の樹木が地中深く埋まりました。



樹木は長い間、空気に触れなかった為、保存状態が良く、2000年を超えて時代を遡る樺は、神代(じんたい)樺と呼ばれます。2014年に日本海沿岸東北自動車道のインターチェンジ建設に伴ってこの埋もれ木が見つかりました。中には、樹木の根を上縦に突き刺さった形で見つかった埋もれ木もありました。樺の大木は、トレーラーで運ばれ、愛知県の木材会社で製材された後、大川市に運ばれました。買い付けから乾燥、補修、磨きまで、5年がかりのプロジェクトでした。

秋田県と山形県に跨る鳥海山は、標高2236m。二つの馬蹄形のカルデラがあります。火山活動の時期は、ステージ①が、約60万年前～約16万年前、ステージ②が約16万年前～2万年前、ステージ③が2万年前～現在に分けられています。紀元前466年の噴火では鳥海山の山体が大規模に崩壊する山体崩壊が発生し、麓に向かった「岩屑なだれ」が一気に海岸近くまで流れ出たと見られています。

にかほ地域は2016年、鳥海山・飛島ジオパークに認定され、にかほ市象潟郷土資料館には、針葉樹、広葉樹の埋もれ木が多数、展示されています。

「象潟や雨に西施がねぶの花」。松尾芭蕉が1688年(元禄2年)6月、奥の細道で象潟を訪れた際、読んだ句です。しかし、1804年(文化元年)の大地震で南北2キロの象潟湖は隆起して陸地化し、芭蕉の風景は消えました。地震の3年前から鳥海山の火山活動が活発になっていました。神代樺を含めて、火山活動の中では、「ごく最近の事」なのです。